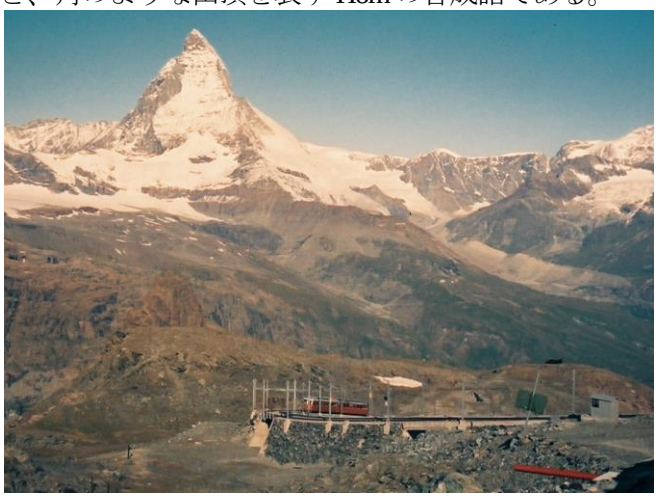
100 世界遺産の旅（145）

欧州アルプス 3 名峰 ②

スイスの山と云えば、まず紺碧の空に突き刺さる石の鏃に似たマッターホルンを思い浮かべるだろう。ポストバスと氷河特急を乗り継いで、昼過ぎに、マッターホルンの町ツェルマットへ到着した。

ツェルマットは、山の麓にある小ぢんまりとした町で、南の端まで登り詰めたが、尾根に隠れてマッターホルン（4478m）は、頂上しか見えなかった。

マッターホルンは、ドイツ語で牧草地を表す Matt と、角のような山頂を表す Horn の合成語である。



マッターホルンと登山電車、スイス、2000 年 7 月

翌日、晴天の朝、登山電車に乗ってゴルナーグラート展望台（3089m）へ向かった。トンネルがないのでマッターホルンが見える大パノラマであるが、マッターホルンは、進行方向の右手からしか見られないので、家人と急いで右側の席を確保した。

展望台に立つとマッターホルンは、手に取るような位置に聳え立ち、単独峰がゆえ、世界で最も美しい山の 1 つで、1 度見れば忘れ難い山容である。

ゴルナーグラート展望台、スイス、2000 年 7 月

あまりに景色が美しすぎて、展望台より登山電車の代わりに徒歩で下山することにした。下山中、どこから見ても逃げないマッターホルンの光景であった。

緩やかな谷の山道を下って 1 時間半ほどすると、撮影名所「逆さマッターホルンの湖」で有名なリッフェル湖（2757m）に辿り着き、早速リュックを下ろして記念撮影と洒落こんだ。幸い快晴で、期待していたよりも満足のいく「逆さマッターホルン」が撮れた。

逆さマッターホルン、リッフェル湖、2000 年 7 月

リッフェル湖からも穏やかな坂道で、何人かの登山者と遭遇して挨拶を交わしたが、我々は、電車で登り、徒歩での下山なので、なんとなく後ろめたさを感じた。標高 2000m より下は、樹林でマッターホルンが見難くなるので、リッフェルアルプ駅で登山電車に乗ってツェルマットへの帰路に就いた。

ツェルマットと滞在 Hotel Derby、スイス、2000 年 7 月

滞在中のホテルで、朝食をとっていると、日本人らしい中高年のご婦人達が「日本人の方で、ご夫婦の自由旅行ですか？」と聞いてきたので「そうです。」と答えた。彼女たちは、航空券、電車、ホテルは、旅行会社手配のセレブな旅女達に見えた。

ツェルマットでは、ガソリン自動車の乗り入れは禁止で、馬車と電気自動車が、町中の交通機関である。また、朝夕 2 回、ヤギの一群が、牧童に追われて町中を行き来する様は、酪農国スイスを象徴する微笑ましい光景であった。宿泊ホテルのテラスで夕食のチーズフォンデュを頂きながらマッターホルンの眺望を回想し、ツェルマットの 1 日を終えた。

巻末（3-11）欧州アルプス 3 名峰